

桜蔭俳話会 一月句会(第三七二回)

平成三十一年一月二十日(日)

会場・旭区民文化センター(サンハート)

- 5点 まんぼうに背骨のあるや寝正月 守
- 4点①初鏡コンマニミリの髭を剃る 秀夫
- 4点①潮の香のウエットスーツより御慶 才美
- 3点①無為の時過ごせし左脳四日かな 守
- 3点 江ノ電の人に揉まるる獅子頭 才美
- 3点 成人日硬き革靴へと朝日 秀夫
- 3点 掬ひ抱く嬰の佳き香やお元日 才美
- 2点①初漁や海は地球のごみ捨て場 守
- 2点 松過ぎてとまれ珈琲淹れにけり 秀夫
- 2点 宿命の大地の震へ初山河 守
- 2点 定位置に蹲る猫寒日和 ヤエ子
- 2点 フーコーの振り子の影や去年今年 守
- 2点 新年や生きていたら兄に会ふ 直子
- 2点 江ノ島を鳶の大円冬夕焼 幸
- 1点①宴会は飲み放題や女正月 友子
- 1点①譲られし席のぬくもり春近し 幸
- 1点①雑踏の黒衣多しや寒の入 ヤエ子
- 1点 白きカップに残る寒紅拭ひけり 友子
- 1点 買初めや終活ノート躊躇して 友子
- 1点 初富士の見ゆる座席や我職場 直子
- 1点 塗椀にかつお菜浮きし雑煮餅 明美
- 1点 酷寒や一言多い見舞妻 眞壽
- 1点 枇杷の花主なき庭の手水鉢 ヤエ子
- 1点 階段も母のリハビリ日向ぼこ 直子
- 1点 初句会色賑やかな菓子並ぶ 邦子
- 1点 おちこちから届きし夏柑いかにせん ヤエ子
- 1点 弓始太陽食みし月の陰 守
- 1点 褒められて土産に持たす節料理 友子
- 1点 蕎麦もはや糞となりけり去年今年 秀夫
- 1点 採血の血管細し初暦 守
- 1点 初山河青くあれかし美らの海 才美
- 1点 老修女二人連れにて冬菜買う 幸
- 1点 初吟詠百一歳の背筋伸ぶ ヤエ子
- 1点 松の内嘘の歴史も華やぎぬ 才美
- 1点 もう無理な山よ富士塚初詣 友子
- 1点 今日もまだ生きてうれしや小豆粥 眞壽
- 1点 「のさまた」へ願ひいくつや寒満月 友子

※

- 待ち伏せの猫に捕まる寒鴉 眞壽
- かく在りて冬の葦を愛しめり 才美
- 置炬燵足のむくみとれ長生す 直子
- 追羽根のはたと飛び乗るボンネット 明美
- 成人の日や曙の椅子ますぐ 秀夫
- 人の日や生命線に置く地平 才美
- 門松を立てて華やぐ老ひの家 明美
- 代筆とおぼしき賀状届きけり 幸
- 琴尺八奏る洋楽新年や 直子
- 人日や池に手斧の落つる今 秀夫
- 幼とのハグに始まる年迎へ 友子
- 初日いま松籟しばし静もりぬ 才美
- 挨拶をスマホで送る寒の街 直子
- 松とれてピアノの音で目覚めたり 邦子
- ビル火事の屋上にゐる人の影 明美
- 大寒や胸元開く眼鏡女子 ヤエ子
- 寒星のまたたき見つむふたりかな 友子
- 冬枯れの広場に光る緑の草 直子
- 白富士や安名授く墓参あり かほる
- 初春やコントラバスの腹に沁む ヤエ子
- 一舟のひらく淡海や淑気満つ 才美
- 売初のちびつ子虜にアニメショー 明美
- 冬苺友と食すと甘さ増す 直子
- 合鴨のよちよち歩く寒の小屋 ヤエ子
- 初漁の戻りの旗やかもめ来る 守
- 玄関のたたら踏みおり冬の朝 かほる
- 晴天や手先冷たし寒の入り 直子
- 賀状だけ生きていますと知らせ合い 眞壽
- 平成や筆置く最後の年賀状 邦子
- 街の端地藏の肩の掛飾 ヤエ子
- 日が落ちて毛糸帽子の下校道 邦子
- まるまると太りし赤児青木の実 眞壽
- 初社乾く鈴の音きりもなし 友子
- 初富士や心に負荷のなき夕べ 守
- 多羅葉をひと葉もらひし初社 友子
- 初日浴び鳥抜羽の白と黒 幸
- 一片の肉持てあます菓喰 かほる
- チケットに夢を託して旅始 守

初鴉収集日知りあつまりぬ かほる  
ただ一つ残れり障子貼り替えし 邦子  
福寿草北風にゆれ時を待つ 直子  
新調の揃ひの水着初泳ぎ ヤエ子  
(欠席投句 古野明美、京林眞壽、稲葉幸)

【事務局からお知らせ】

○第一三二回通信句会作品募集

冬・新年の季語を用いた三句。締切りは二月三日  
(日)。既にお送りしてある葉書でお送りくださ  
い。

○二月は、句会は休みです。

○三月句会

三月二十四日(日)午後一時から、旭区民文化セ  
ンター(サンハート)で行います。

兼題は、「春に咲く様々な花(ただし桜は除く)」  
です。